

第1回学校運営協議会 議事録

期日 令和7年5月9日（金）

時間 午後3時00分～午後4時40分

会場 岩手県立久慈翔北高等学校 門前校舎 会議室

次第および内容

1 開会（副校長）

2 校長あいさつ（校長）

日頃から本校の活動に対して多大なる御支援、御協力をいただいていることに心から感謝申し上げます。

学校運営に関して、学校と地域の関係者が協議し、一体となって特色のある学校づくりを目指し、県教育委員会では学校運営協議会の設置及びコミュニティスクールの取組が進められてきた。県立高校全てに設置することとされており、令和6年度には59校に設置された。本校については、統合を控えていたため、今年度からの設置となった。学校、家庭、地域の三者で目標を共有し、その達成のため、それぞれで役割を分担しながら取り組んでいくことを目指す。

県教委では、岩手の高校魅力化グランドデザインを策定している。各県立高校が特色・魅力ある高校づくりを主体的に推進できるよう、今後の高校のあり方、関係機関と連携した特色ある教育課程の例を示している。それに基づき、各高校がスクールポリシーを策定し、それぞれ特色化・魅力化のビジョンとして公開することで進めている。

本日は限られた時間であるが、学校、家庭、地域が目指す生徒の姿を共有し、どのように特色ある学校をつくっていくかということに関して、忌憚のない意見を頂戴したい。

3 学校運営協議会委員の委嘱

4 自己紹介

5 会長・副会長選出

立候補が無かったため、事務局案を提案。提案の通り承認。

6 協議

（1）概況説明

ア 学校経営計画（校長）

学校経営計画について、資料2～3ページの通り説明。以下、学校の概況説明。

〈補足〉

工業科15名、総合学科124名の新入生が入学し、全校428名で新年度が始まった。1ヶ月の間、生徒・職員共に大きな事故もなく、順調に学校生活を送れているが、様々な不安から、登校が難しくなっている生徒も一定数いる。そのような生徒へは、教育相談やスクールカウンセラー、家庭と情報共有をしながら対応している。

久慈翔北高校は校舎制となり、門前と野田のそれぞれの校舎で生徒が生活することになるが、全校行事や部活動で移動が必要になる際は、バス移動することになっており、生徒間の交流も少しずつ増えてきている。

職員については、門前校舎が70名、野田校舎が27名となっており、校長、事務長、副校長2名を加えると、総勢100名を超える職員数となる。年齢層も若い層が厚く、県全体の平均年齢を10歳ほど下回っており、活動的な職員が多いように感じられる。

先月末から全職員との面談を始めている。面談を通してコミュニケーションを図り、状況

把握に努めたい。

イ スクールポリシー（教務）

資料4～8ページの通り説明。

〈補足〉

グラデュエーションポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーとあるが、重要なのは、基礎学力の定着と地域に貢献できる人材の輩出という二点である。

基礎学力の定着について、授業時数を確保する方向で計画している。また、休みがちとなる生徒に対して、三者ないし四者面談を実施し、学校に足が向くよう支援していきたいと考えている。面談をした上で、昨年度まで久慈工業高校で行っていたように、補習授業の実施も今年度から始めたいと考えている。

地域に貢献できる人材の輩出に関しては、実践的な探究活動の実施を考えている。今まで、総合学科では総合的な探究の時間による学習成果発表会、工業科では課題研究発表会が行われていた。今年度は、合同で開催し、それぞれが学んだことを共有する機会を設けたいと考えている。課題となるのは、それぞれの系列、学科の枠組みを超えた探究活動の実施である。そのような取組の可能性を模索していきたい。ご意見等あれば、頂戴したい。

ウ 特色化・魅力化ビジョン（教務）

資料9ページの通り説明。

エ 生徒在籍数（出身中学校、登校手段等）（生徒指導）

資料10～11ページの通り説明。

オ 部活動（活動場所、部活動支援バス運行計画）（生徒指導）

資料12～13ページの通り説明。

カ 卒業生の進路状況（進路指導）

資料14～15ページについて、訂正がある。朱書きで訂正したものを追加資料としているので、差し替えをお願いしたい。

〈補足〉

進路指導についてではないが、教務課から提案のあった、系列や学科を跨いだ探究活動の実施について補足する。工業科の電子機械科では、課題研究でスマート農業・漁業に着目して取り組んでいる。簡単なことではないが、農業や漁業が直面している問題を解決するために、様々な活動を試行錯誤しながら行っている。

(2) 委員より御助言・御提言等

・(E委員)

学校経営計画の達成指数について、ウの項目だけ91%以上となっている。この数値にしている意図はあるか。

〈回答〉

県が策定している令和7年度アクションプランの数値や、昨年度実施したアンケートの結果を受けて数値を設定しているため、このようになっている。

・(B委員)

東高校と工業高校の数値を参考に設定しているとのことだったが、他校の状況はどうなっているのか。肯定的に捉える意見について、目標は80%くらいが一般的な数値かと思われるが、90%は高いように思われる。

〈回答〉

複数校勤務した経験から、肯定的に捉える数値は他の高校と比べて、高めの結果となっている。他校では、70～80%前後の数値となることが多かった。数値の設定について、意見があれば頂戴したい。

・(A委員)

工業高校では、項目がさらに細分化されていたかと思うが、実際にはこのようなものなのか。

〈回答〉

各校で作成、実施している学校評価アンケートが元になっている。実際の質問事項は更に細分化されているが、項目をまとめているのではなく、その中のひとつの項目をもって指標としている。

・(A委員)

内部でアンケートを実施し、そこで出た数値が高い場合に、数字を操作しているのではないかと疑われる可能性がある。そのため、民間企業の事例として、外部に委員会を設置し、困ったことがあれば当事者から直接報告する方法にするとということもあった。

〈回答〉

アンケートの取り方は難しくなっていると感じる。同じ質問項目であっても、保護者と生徒で乖離する項目があったり、「わからない」の項目に回答が集中して評価に困ったりすることもある。

・(B委員)

個人としては達成指標の数字がやや高いように思われるが、総意としてこの数値で問題ないということであれば、資料の通りの指標でお願いしたい。

・(A委員)

校長先生が職員との面談を実施しているということについて、生徒が、良い先生と巡り合うためには、先生の内面での健康も大切である。そのような意味でも、良い取組だと考える。

企業の採用担当をした経験から、あいさつができて、言葉遣いがきちんとしている人は即戦力となる。プレゼンテーションをする力や問題解決能力は現場で役に立つので、様々な探究活動がなされているのは良いことだと考える。

小学校で、不法侵入から教員が暴力を受ける事件があった。授業参観も企画されている時期だが、そのような事態に対応する訓練はされているのか。

〈回答〉

危機管理マニュアルや連絡体制について、年度始めに全職員に配布し、確認している。不法侵入に対しての訓練は実施していないが、地震や火災を想定した年2回の避難訓練及び消火訓練は実施している。

・(A委員)

マニュアルがあっても、訓練をしていないといざという時に動けない可能性がある。生徒を含め、自分たちの身を守るためにも、そのような訓練も取り入れたらどうか。

・(B委員)

地域の製造業について、高校と企業を繋げていきたいと考えている。そのような部分で、相談があれば遠慮なく言ってもらいたい。

・(C委員)

校舎間における生徒の移動についてはバス利用になるということで、安全面に気を付けて運用してもらいたいと考えている。運転手は職員が担当しているのか。

〈回答〉

県からの予算により、年度始めに運転技師を2名採用している。

・(D委員)

学校で困っていること、学校が取り組みたいと考えていることについて協議する場だと考えている。そのようなことも議題にあげて、今後につながる協議ができる場としていきたい。

・(E委員)

仕事をしている中で、発言することに苦手意識を持つ人が多い地域だと感じている。人材育成に関して、理想像があるということで、学校でも積極性を育ててもらいたい。

・(F委員)

部活動に関して、働き方改革もあるが、週休日の指導もあり、大変ではないかと感じている。民間への委嘱が高校でも進んでいるのか。

〈回答〉

部活動の地域への移行に関して、小・中学校を中心に進んではいるが、地域によって指導者数の差もあり、高校ではあまり浸透していない。県が費用を負担する、部活動指導員や学校で依頼する外部コーチ等の方法がある。それにより、負担が軽減されているという例もある。しかし、週休日に休めないと疲労が蓄積してしまうため、休日を設ける方針となっている。

・(G委員)

プレゼンテーションをする力や発言に対する積極性などに関して、久慈地域は、マイプロに参加する生徒が少ないということである。外部機関でも高校生のためにマイプロを支援しようという考えを持っている方もいる。地域によっては、地域の団体がバックアップする例があるようだが、そのような考えを持っていても、高校の教育現場との繋げ方がわからないという声も聞く。そのような窓口を設けることはできないか。

〈回答〉

課題研究や総合的な探究の時間を行うにあたって、外部団体から様々な話をもらう場面は、これまでもあった。しかし、最優先は授業時間の確保である。授業の計画は前年度に立てているため、直前の依頼では対応できないことも多い。ただし、完全に対応できないということではないため、先を見通して、相談してもらいたい。また、外部機関と連携した活動の機会を探している生徒や教員もいるため、何か情報をお持ちであれば、教えてもらいたい。

・(H委員)

ヨムノスで地域づくりの職員と参加を希望する高校生が交流する企画をしているが、参加者はまだ多くない。学校での教育活動が優先ではあるが、困っている生徒がいたら、参加を促してもらいたい。

目指す学校像として、地域に根ざし、地域に貢献する人材を育成するとある。ここに力を入れ、地域の良さについて、生徒に伝えることが大人の役目だと感じている。地域活動ということで、地域力の向上も必要だと感じている。地域や団体、企業側も一緒になり、高校生が学べる環境づくりに取り組んでいければと思う。

7 その他

8 閉会のことば（副校長）